



第15回 日本ジオパーク全国大会 十勝岳大会
—地球に学び、未来を育む—

協賛企業・団体



サマージャンゴ宝くじの収益金は、
市町村の明るく住みよいまちづくりに活用されています。



地球に学び、
未来を育む

第15回
日本ジオパーク全国大会
—とかちだけ—

十勝岳
大会

2025.9.27^{SAT} - 9.28^{SUN}



大会報告書



主催：第15回日本ジオパーク全国大会十勝岳大会実行委員会／一般財団法人自治総合センター
協力：特定非営利活動法人日本ジオパークネットワーク／日本ジオパーク委員会



第15回日本ジオパーク全国大会十勝岳大会実行委員会

委員長 **角 和 浩 幸**（美瑛町長）

第15回日本ジオパーク全国大会十勝岳大会の大会報告書発行にあたり、一言お礼のご挨拶を申し上げます。
今大会は北海道で開催される3度目の全国大会となりました。4年前に初めて日本ジオパークの認定を受けた、まだ歴史も経験も浅い十勝岳ジオパークではありますが、15回目の節目の全国大会開催という大役を引き受けて、皆様の満足のいく大会運営を行えるか不安も感じながら準備を進めてまいりました。美瑛町、上富良野町ともに人口1万人弱のまちであり大規模な施設も少ないなか、会場設定や宿泊場所、交流会の開催方法など、どうしたら皆様の満足をいただける大会になるか、頭を悩ませました。結果として初日を美瑛町内、宿泊と交流会を白金温泉、2日目を上富良野町内に会場を設定し、各会場間をシャトルバスで移動いただく形をとらせていただきました。参加者の皆様には移動が多くご不便をおかけしてしまいましたが、一方で十勝岳ジオパークの広いエリアを2日間の中で体験いただけましたことは、十勝岳ジオパークとしてはたいへん嬉しく感じているところです。

大会には634名の方がエントリーしてくださいました。主催者により斡旋させていただいた白金温泉の宿泊施設には416名の方にご宿泊をいただき交流会にもご参加いただきました。

天候についても心配しておりましたが、大会当日は二日間とも好天に恵まれ、噴気を上げる十勝岳及び十勝岳連峰、そしてこの地域に広がる、太古の大規模火砕流と現代の農業の営みが作りだした農村丘陵の美しい風景を、皆様に体験していただくことが出来ました。

本大会で得られた貴重な知見や、全国各地の皆様とのネットワークは、十勝岳ジオパークにとって大きな財産となりました。この経験を活かし、地域の自然遺産を守りながら、教育、防災、観光振興といった多角的な視点から、持続可能な地域づくりを推進してまいります。

結びに、本大会にご参加、ご協力いただきましたすべての皆様の、ご健勝と益々のご発展を心よりお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。



第15回日本ジオパーク全国大会十勝岳大会実行委員会

副委員長 **斉 藤 繁**（上富良野町長）

第15回日本ジオパーク全国大会十勝岳大会の開催にあたり、全国各地から多くの皆様にお越しいただき、誠にありがとうございました。大会が盛会のうちに終了することができたのは、ひとえにご参加の皆様、並びにご支援を賜った多くの方々のおかげであり、心より感謝申し上げます。

本大会のテーマである「地球に学び、未来を育む」は、この地域の歩みそのものを象徴する言葉です。十勝岳は日本を代表する活火山の一つであり、私たちに地球の活動を雄弁に示してくれる存在です。この地域には、過去の噴火や泥流災害を乗り越える中で、先人から受け継がれてきた暮らしの営みと知恵があり、その経験は現在の防災・減災の意識として確かに息づいています。この地球（ほし）で生きる私たちが、自然との共生のあり方を再認識し、未来を紡いでいく姿そのものが、ここにはあります。

本大会では、市町村長セッション、分科会、口頭発表・ポスター発表、パネルディスカッションを通して、火山防災の取り組みや教育の実践、地域資源の活用など多岐にわたる知見が共有されました。また、火山実験ワークショップでは、体験的な学びを通して火山現象への理解を深めていただくことができました。さらに物産展では、火山の恵みを受けて育まれた十勝岳ジオパークならではの特産品をご紹介します、地域の魅力にも触れていただく機会となりました。

本大会を通じて形成されたネットワークと新たに得られた学びは、全国の仲間とともに次世代を担う人材を育み、持続可能な未来を創る大きな力になるものと確信しております。今後も地域と連携しながら、十勝岳エリアの魅力と防災の知恵を全国に発信してまいります。

結びに、本大会の開催にご尽力くださったすべての皆様に、改めて深く感謝申し上げ、日本ジオパークのさらなる発展を祈念いたします。

Contents

・開催概要	03	・プレツアー	15
・大会プログラム	03	・ポストツアー	17
・開催報告		・口頭発表	20
9月26日(金)	05	・ポスター発表	22
9月27日(土)	06	・物産展	24
9月28日(日)	09	・火山実験ワークショップ	26
・分科会	10	・全国大会記念特別事業	28
・市町村長セッション	14	・参加者数	29
		・大会実行委員会名簿	29

開催概要

- 大会名称
- 第15回日本ジオパーク全国大会十勝岳大会
- テーマ
- 地球に学び、未来を育む
- 会期
- 2025年9月27日（土）～9月28日（日）（9月26日JGN各種会議、プレイベント）
- 会場
- 美瑛町スポーツセンター、上富良野町社会教育総合センターほか
- 主催
- 第15回日本ジオパーク全国大会十勝岳大会実行委員会、一般財団法人自治総合センター
- 協力
- 特定非営利活動法人日本ジオパークネットワーク、日本ジオパーク委員会
（日本火山学会・全国火山実験研究交流会）
- 後援
- 北海道、北海道教育庁上川教育局
- 事務局
- 第15回日本ジオパーク全国大会十勝岳大会実行委員会事務局（十勝岳ジオパーク推進協議会）
〒071-0292北海道上川郡美瑛町本町4丁目6番1号 美瑛町役場3階
TEL：0166-76-4004 E-mail：geo2025@tokachidake-geopark.jp

プログラム

9月26日🌞 JGN各種会議、プレイベント

時間	内容	会場
10:00～12:00	JGC事前相談会	上富良野町保健福祉総合センターかみん
10:00～12:00	火山実験ワークショップ（高校生）	北海道上富良野高等学校
13:00～15:00	JGN運営会議	上富良野町保健福祉総合センターかみん
13:05～15:30	火山実験ワークショップ（小学生）	上富良野町立上富良野小学校
15:30～17:30	JGN全地域事務局長会議	上富良野町保健福祉総合センターかみん
18:30～20:00	JGN・JGC交流会	ハーブガーデン富良野（上富良野町）

9月27日🌤 大会1日目

時間	内容	会場
9:15-10:30	開会式	美瑛町スポーツセンター
10:00-15:30	物産展・出展ブース	丘のまち交流館bi.yellビ・エール道の駅びえい「丘のくら」
10:40-12:00	<div>基調講演</div> <div>宇宙創生から未来へ ～これからの地球と私たち～</div> <div>講師 佐治 晴夫 氏（理論物理学者／理学博士）</div> <div>東京大学物性研究所、松下電器東京研究所、NASA客員研究員を経て、玉川大学教授、県立宮城大学教授、鈴鹿短期大学学長を歴任、現在、同短期大学名誉学長。大阪音楽大学大学院客員教授。美瑛町・美宙(MISORA)天文台名誉天文台長。無からの宇宙創生にかかわる「ゆらぎ」の理論研究や太陽系・外惑星探査機：ボイジャーに地球からETへのメッセージとしてバッハの音楽を搭載することを提案したことなどで知られる。</div>	美瑛町スポーツセンター

13:30-16:30	市町村長セッション	バスツアー 出発地：美瑛町町民センター 終着地：ホテルパークヒルズ
14:00-17:00	分科会	
	(1)複数自治体で構成されるジオパークの課題検討	美瑛町町民センター2F第3・4会議室
	(2)目指せ1ジオパーク1ユニバーサルデザインコース ～すべての人が楽しく地球と触れ合えるモデルコースを作ろう～	美瑛町町民センター3F和室A・B
	(3)ジオパーク×アドベンチャートラベル ～大地の魅力を生かして、“心に刻まれる旅”を提供するために～	美瑛町町民センター3F大会議室
14:30-17:30	(4)生き物を守るってどういうこと？ ～とかち鹿追のナキウサギの事例から考える～	ホテルパークヒルズ西館1F和宴会場B
	(5)全国のジオパークで取り組んでいる防災活動 ～全国のジオパークで実践する自然災害関連プログラムの共有～	ホテルパークヒルズ西館2F洋宴会場A
	(6)ジオパークだからできる海洋環境問題について	ホテルパークヒルズ西館1F和宴会場A
	(7)地質物品の保護と販売 ～地質物品に代わる代替商品を考えよう！～	ホテルパークヒルズ西館2F洋宴会場B
	(8)実験を用いたジオパークの教育普及活動 ～ジオ火山実験を通して～	地域人材育成研修交流センター食堂・ラウンジ
10:00-18:00	(9)ユースセッション2025	美瑛・上富良野町内 フィールドワーク、 地域人材育成研修交流 センター研修室A
18:30-20:00	交流会	ホテルパークヒルズ・ 碧の美ゆゆ・森の雫RIN

9月28日🌙 大会2日目

時間	内容	会場
9:00～11:15	口頭発表（一般・小中高）	上富良野町社会教育総合センター
9:00～14:55	ポスター発表（一般・小中高） （11:30～12:15 コアタイム）	上富良野中学校体育館
10:00～15:30	物産展・出展ブース	上富良野町役場前特設会場
13:15～14:15	パネルディスカッション	上富良野町保健福祉総合センターかみん
14:15～14:30	閉会式	上富良野町保健福祉総合センターかみん

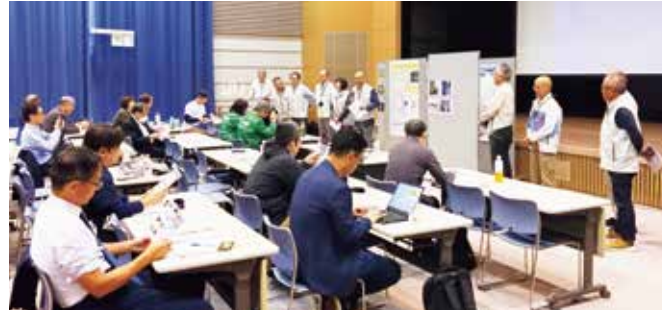
大会テーマ 「地球に学び、未来を育む」

十勝岳は日本を代表する活火山の一つであり、私たちに地球の活動を示してくれる存在です。この地域では過去の噴火や泥流災害を乗り越え、繋いできた営みがあり、それらは現在の防災・減災の意識にも現れています。この地球（ほし）で生きる私たちが授受する影響について再認識し、全国の仲間とともに次世代を担う人材の育成や持続可能な未来を創る一助になる場を目指します。

9月26日(金)

JGC事前相談会

日本ジオパーク申請希望の3地域(大雪山カムイミন্তラ、せとうち讃岐、やまなし上野原)から19名、ユネスコ世界ジオパーク国内推薦申請希望の8地域(霧島、男鹿半島・大潟、三陸、桜島・錦江湾、南紀熊野、栗駒山麓、下北、鳥海山・飛島)から23名が参加し、日本ジオパーク申請希望地域に対しては中田節也JGC委員長、国内推薦申請希望地域に対しては大野希一JGC委員が説明を行いました。日本ジオパーク申請希望の3地域がポスター発表で概要や準備状況を説明し、JGC委員や現地調査員経験者からの質問に応えました。



JGN運営会議

96名が参加し「運営会議についてみんなで考えよう」をテーマに、経緯や背景を踏まえた上で、運営会議の在り方や今後の方向性を多角的に議論しました。ワーキンググループ(WG)をテーマにしたセッションでは、各WGのリーダーたちがステージに上がって活動内容を紹介しました。最後のテーマ別ディスカッションではツーリズム・教育・保護保全などテーマごとに分かれて議論しました。グループディスカッションを通じて全国のジオパークの知見を共有し、運営会議やWGの未来を描く有意義な会議となりました。



JGN全地域事務局長会議

53地域中51地域(事務局長31名、代理出席20名、随行者1名)が参加し、古川理事長、中田JGC委員長も出席されるなか、災害対応、企業連携、全地域事務局長会議の開催地、全国大会のあり方、審査体制、JGNの今後の運営体制などについて協議しました。その結果、毎年夏に東京で開催してきた全地域事務局長会議をジオパーク地域で開催してみようことを決定しました。その他の協議事項は継続協議とし、活発な質疑や意見交換が行われ各地域間の情報共有やネットワーク強化につながる有意義な会議となりました。



JGN/JGC会議参加者交流会

JGC事前相談会、JGN運営会議、JGN全地域事務局長会議に参加された方を対象にした交流会が、ハーブガーデン富良野(上富良野町)において開催されました。上富良野町特産の豚肉を使った料理や、上富良野町栽培の大麦とホップだけでつくったビール「まるごとかみふらの」などが提供され、翌日から始まる本大会に備えて英気を養い、交流を深めました。



火山実験ワークショップ→詳細は26～27ページを参照

9月27日(土)

オープニングアトラクション 上富良野東中(ひがしなか)小学校 清流太鼓(せいりゅうだいこ)



主催者・協力者あいさつ



大会実行委員長
十勝岳ジオパーク推進協議会会長
美瑛町長
角和 浩幸



日本ジオパークネットワーク理事長
島原半島ジオパーク協議会会長
島原市長
古川 隆三郎



日本ジオパーク委員会委員長
東京大学名誉教授
防災科学技術研究所
火山研究推進センター参事
中田 節也



北海道副知事
加納 孝之

来賓あいさつ



ジオパークによる
地域活性化推進議員連盟
衆議院議員
東 国幹 氏



衆議院議員
西川 将人 氏



文部科学省国際統括官
北山 浩士 氏



内閣総理大臣(当時)
ジオパークによる
地域活性化推進議員連盟会長
石破 茂 氏

日本ジオパークネットワーク認定証授与



三好ジオパーク



蔵王ジオパーク

日本ジオパークネットワーク表彰

表彰状 佐伯 勝也 氏

佐伯勝也氏は四国カルスト・大野ヶ原に在住し、農家カフェ「森の魚」を営むかたわらガイドとして多くの来訪者を案内してきました。また過去には地域の水源にもなっているブナの原生林の伐採を阻止する活動にも尽力してきたほか、2024年にはドキュメンタリー映像「開拓の子」に出演し、大野ヶ原の魅力の発信にも貢献されました。

一連の取組は地域振興と環境保全の両面で顕著な功績であり、他の模範となる取組であると認められたことから、今回に表彰に至りました。



表彰状 住 康平 氏

住康平氏は、伊豆半島の地質現象、地域に残る災害の記憶、散逸しつつある伝承などに関する調査に基づいたクリフエッジプロジェクトを10年にわたり継続し、2013年から2024年までほぼ毎年展覧会を開催されました。火山噴火や火砕流、地震、豪雨による土石流や洪水など、さまざまな自然現象に注目し、アートで「大地と人の関わり」を表現することで、伊豆半島の自然環境、暮らし、歴史をより大きな視野で認識することに寄与されました。

ジオパークと現代アートを有機的に結び付けた先駆的な試みは非常にクリエイティブでユニークであり、他のジオパークにおいても発想豊かな取組が生まれることを促す、優れた事例であることから、今回の受賞に至りました。



表彰状 鉾子ジオパーク市民の会

鉾子ジオパーク市民の会は、発足以来、大変積極的に多岐にわたる活動を継続されており、現在は約220名の市民が会員となっています。地質遺産やサイトの保全、教育や防災、情報発信、ビジターセンターでの案内や勉強会、月2回の市民参加型の清掃活動などを通して、地域全体のジオパークの理解や保全意識の向上に大きく寄与しました。また、ジオパークの運営においても重要な役割を果たしてこられました。こうした継続的かつ実践的な市民主体の活動は、日本ジオパークの「地域振興」および「保護・保全」において顕著な功績を挙げていることから、今回の受賞に至りました。



基調講演

理論物理学者の佐治晴夫氏より「宇宙創生から未来へ～これからの地球と私たち～」と題した基調講演が行われました。佐治氏は、無からの宇宙創生にかかわる「ゆらぎ」の理論研究や宇宙探査機ボイジャーに地球からETへのメッセージとしてバッハの音楽を搭載することを提案したことなどで知られています。講演では、宇宙誕生から星の一生、人類誕生に至る壮大な歴史について科学的な成果を踏まえて紹介頂きました。宇宙に存在する元素と人間の体を構成する元素が共通していることを示し、人間は「星のかげら」であること、さらに、星に寿命があり、爆発によって元素が宇宙に撒かれることで生命誕生の材料が生まれる仕組みを解説頂きました。また、地球に迫る隕石衝突の危険、戦争の多い人類史、互いに助け合う人間本来の性質などにも言及し、星空を見上げ、芸術や文化を通じて心をつなぐことの重要性を強調されました。今回の講演は、宇宙的視点から地球と人類の未来を考える貴重な機会となりました。



丘と彩りのふれあいマルシェ→詳細は24～25ページを参照。

分科会→詳細は10～14ページを参照。

市町村長セッション→詳細は14ページを参照。

交流会

美瑛町白金温泉街の3ホテル(ホテルパークヒルズ・森の雫RIN・碧の美ゆゆ)を会場として、計418名が参加し、全国のジオパーク関係者との交流の時間を過ごしました。

地元の食材を使った料理やケータリングのほか、全国のジオパーク地域の地酒コーナーを設置し、PRタイムを設けました。地域の分け隔てがない活発な交流が見られ、会場は大いに盛り上がりを見せました。



9月28日(日)

口頭発表→詳細は20～21ページを参照。

ポスター発表→詳細は22～23ページを参照。

パネルディスカッション

テーマ「わたしたちの地球とこれから」

コーディネーター

佐藤 鋭一 氏
(北海道教育大学旭川校准教授)

パネリスト

小林 辰巳 氏(山陰海岸ジオパーク)
松原 典孝 氏(兵庫県立大学教授)
加賀屋 にれ 氏(洞爺湖有珠山ジオパーク)
福井 智香子 氏(三好ジオパーク)

佐藤 公 氏(磐梯山噴火記念館館長)
野邊 一寛 氏(隠岐ジオパーク)
榊原 正幸 氏(愛媛大学教授)
横山 光 氏(北翔大学教授)
大野 希一 氏(鳥海山・飛島ジオパーク)

パネルディスカッションは、上富良野町保健福祉総合センターかみんで行われました。テーマを「わたしたちの地球とこれから」として、ジオパークと地域の子どものつながりなどについて意見が交わされました。パネラーからは、地域の子どもたちが自分の地域に誇りを持てるように活動しているという報告がありました。一方で、誇り・愛着を持った子どもたちに対して、将来的な雇用を作ることが重要だという意見が出されました。また、防災教育についても意見が交わされました。十勝岳では来年(2026年)で大正泥流(1926年)の被害から100年になります。パネラーからは節目の機会に、改めて防災意識を高める内容の活動を地元で実施するのが良いのではないかという意見が出されました。



閉会式

主催者お礼



大会実行委員長 角和 浩幸

次年度開催地あいさつ



桜島・錦江湾ジオパークの皆様

閉会あいさつ



大会副実行委員長 齊藤 繁

複数自治体で構成されるジオパークの課題検討

企画・運営	山陰海岸ジオパーク推進協議会、三陸ジオパーク推進協議会、南紀熊野ジオパーク推進協議会	申込人数	46名
概要	日本のジオパークは運営主体が自治体の場合が多く、ボトムアップのジオパーク活動を推進すると同時にスポンサーである自治体との調整は不可欠な業務となります。特に複数の構成自治体からなるジオパークは、活動における様々な場面で調整が必要となることがあります。このような複数構成自治体の体制を持つジオパーク同士が課題共有し、その解決について、新しいアイデアをワーキングで検討しました。		
内容	1 事例発表 (1) 山陰海岸ジオパーク：連携・情報共有の方法、運営体制強化等 (2) 三陸ジオパーク：広域連携対策、地域住民・企業の参画対策等 (3) 南紀熊野ジオパーク：広域のサイトの管理方法、地域間の温度差解消等 2 グループ討議(事前アンケートで多かった課題) (1) 地域間(自治体間)の温度差の解消 (2) 知識・経験の蓄積 (3) 事業の地域間バランスの調整		
まとめ	・事例発表では、首長のジオツアーの実施や、首長と地域の懇談会の席でジオガイドの発言が多かったことから、首長のジオパークへの認識が深まったことなど、ユニークな事例が発表されました。 ・グループ討議では、長めの時間設定をしたつもりでしたが、事後アンケートの結果は、もっと討論したかったとの意見が多かったです。 ・事後アンケートでは、5段階評価で5(43%)、4(43%)と満足度が高く、「同じ悩みを共有できた」「自分たちの困りごとと一致した」「課題解決の糸口が言えた」など、開催目的と一致した意見を聞くことができました。		



目指せ1ジオパーク1ユニバーサルデザインコース～すべての人が楽しく地球と触れ合えるモデルコースを作ろう～

企画・運営	JGNユニバーサルデザインWG	申込人数	45名
概要	すべての人が地球のことを理解し、地球とともに心地よく持続的に生きていくモデル地区ともいえる「ジオパーク」。そこは、多様な人が多様な表情や現象を有する地球と楽しく触れ合う場でもあるべきです。一方で、地球の多様な表情や現象は、触れようとする人に様々な障壁をもたらすことがあります。それは段差などアクセスの障壁であったり、言語や説明文の難易度であったりと様々です。本分科会では、より多くの「多様な人」が楽しく地球と触れ合い、持続的に地球で生きていけるように、誰でも地球に触れることのできるユニバーサルデザインのサイト周遊モデルコース作りについて学び、議論しました。		
内容	①14:00～14:15 なぜジオパークでユニバーサルデザインなのか?これまでの議論を振り返る:松原 ②14:15～14:30 ジオパークにユニバーサルデザインを導入することで開ける未来とは:丸橋 ③14:30～15:15 各地の事例～科研UDチームによる報告～ ④15:30～16:30 各ジオパークにおけるUDモデルコースの共有(事前に作成したコースの概要説明:口頭発表) ⑤16:30～17:00 Google マップを用いたモデルコースづくり		
まとめ	今回は、山口大学西尾先生の科研チームより、ジオパークにおけるユニバーサルデザインの大切さや国内外の事例・実践例について情報共有を行うとともに、参加者とユニバーサルデザインモデルコースについて議論しました。その中で、各ジオパークやそのサイトの状況に関する情報がオープンになっていることがまず大切であること、事前アンケートでユニバーサルデザインモデルコースが設定できないと回答した地域でも、工夫次第でユニバーサルデザインモデルコースが作れることなどを共有しました。今後、今回の議論をもとに、さらに各ジオパークでのアイデアをブラッシュアップさせ、1ジオパーク 1ユニバーサルデザインコースを作成し、UDワーキンググループとして、JGNウェブサイトに掲載したいと考えています。		



ジオパーク×アドベンチャートラベル
～大地の魅力を生かして、“心に刻まれる旅”を提供するために～

企画・運営	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会	申込人数	116名
概要	この分科会では、本大会プレツアールの実践事例を紹介しながら、アドベンチャートラベルの基本的な考え方やジオパークとの効果的な連携のあり方について共有しました。後半は、北海道アドベンチャートラベルガイド(スルーガイド)で、通訳案内士でもある馬上千恵(もうえ・ちえ)さんを講師としてお迎えし、ATのツアーとして“心に刻まれる旅”を提供するために欠かせない「スルーガイド」の役割と技術を学びました。		
内容	・話題提供(加賀谷にれ) アドベンチャーツアーの考え方 プレツアー「アドベンチャートラベル体験ツアー」の感想 (ツアー参加者、担当ガイド) ジオパーク×ATの可能性 ・講習「スルーガイドの役割と技術」(馬上 千恵) ・参加者との意見交換 ・まとめ		
まとめ	アドベンチャートラベルはその地域の自然や文化を深く体感する旅のスタイルです。地域のさまざまな魅力を再発見しながら、持続可能な観光をめざす手法は、ジオパークの活動とも高い親和性があります。アドベンチャートラベルは、世界で100兆円以上の市場と言われており、ジオパークでその客層を地域に呼び込むことに経済的な効果があります。 ジオパークはアドベンチャートラベルから多くのことを学べます。その一つとして、ガイドの役割を「スポットガイド」と「スルーガイド」の2種類に分ける考え方があります。スポットガイドは、各地点のガイドツアーを担当します。スルーガイドはスポットガイドと協力しながら、ツアー全体をコーディネートします。		



生き物を守ってどうということ?～とかち鹿追のナキウサギの事例から考える～

企画・運営	JGN生態学ワーキンググループ、とかち鹿追ジオパーク推進協議会	申込人数	33名
概要	北海道の山岳地帯に生息するエゾナキウサギ。その愛くるしい姿を一目見たいと訪れるカメラマンや登山者は多く、とかち鹿追ではロープを張るなどの対策に乗り出しています。しかしその効果の評価が難しく、周辺の植物が踏み荒らされたり、人間同士のトラブルが発生したりしています。ジオパークというプログラムを活かして生き物を守るにはどうすればよいのか。この分科会では、とかち鹿追ジオパークのエゾナキウサギを事例に考えました。		
内容	1.趣旨説明 2.話題提供① ナキウサギとはどんな生き物か 3.話題提供② とかち鹿追のエゾナキウサギを巡る現状と課題 4.話題提供③ 現場からの報告一分科会連動巡検の参加者が見聞したこと 5.テーマ別ディスカッション ・エゾナキウサギと周りの植物の両方を守るにはどうすればよいのか ・エゾナキウサギの観察を巡る人間同士のトラブルを解決するにはどうするか 6.全体討論・まとめ		
まとめ	この分科会では、とかち鹿追ジオパークのエゾナキウサギを事例に取り上げ、エゾナキウサギと周辺の植物の両方を守る方法や、人間同士のトラブルを解決する方法について議論しました。参加者からは、入山の規制や観察できる時間の制限、年毎に観察可能なエリアを変えること、AI搭載のロボットを設置してマナーを啓発すること、などのアイデアが出ました。まとめとして、ヒトの存在によって維持される生態系もあり、ヒトも自然の一部、あるいは生態系の一部として捉える必要がある、ということを共有しました。また、エゾナキウサギは広域に生息しているので、近隣のジオパークや国立公園も含めた大雪山系全体で考えることが重要との視点や、保全のためには調査研究が非常に大事であるとの視点が提示されました。		



全国のジオパークで取り組んでいる防災活動～全国のジオパークで実践する自然災害関連プログラムの共有～

企画・運営	JGN防災ワーキンググループ	申込人数	62名
概要	ジオパークで防災関係のプログラムをやっているなかで、課題、苦勞、困り事項など、お互いで共有することで、工夫していることを共有しあい、各ジオパークでどうやっているのか、これからどうやっていくのか、代表で各ブロックから事例を共有し、ジオパークの防災の形について共有しました。また、実践している災害のプログラムの課題や苦勞や困り事項をグループワークでまとめました。		
内容	・はじめに(15分) 本分科会の方向性(5分、磐梯山:佐藤) 三松三朗氏の追悼のお話(5分、箱根:荒木) 本分科会のテーマ(5分) ・情報共有(各15分+質疑3分程度×6=1時間50分) 「気象・気候の特徴や災害をマップ化」(中四国近畿:三好GP、 殿谷:オンライン) 「GP検定を通じた減災教育」(北海道:洞爺湖有珠GP、金田) 「栗駒GPにおける防災教育」(東北:栗駒山麓GP、原田) 「伊豆大島GPの防災教育」(関東:伊豆大島GP、臼井) 「白山手取川GPの防災教育」(中部:白山手取川GP、町) 「今こそ!ジオ×防災ー現場の声から見える防災教育のヒントー」 (九州:豊後大野GP、釘宮) ・全体ディスカッション(50分) 事前共有していただいたプログラムの紹介(5分)		
まとめ	・国土交通省、気象庁、国土地理院、防災科学技術研究所など、 専門機関と連携して、専門的知識、防災対策側は力を借りよう ・防災学習資料などのコンテンツ共有、アーカイブ化する。使われた 痕跡がわかるような仕組みができるとよい ・災害遺構の活用と劣化、メンテナンスと維持 ・住民が自分事として考えてくれるか?というところが課題 ・災害の記憶の風化がある、伝えていくのがジオパーク ・防災教育の伝える技術の向上 ・被災者の語り部の語り部になる		



ジオパークだからできる海洋環境問題

企画・運営	ユネスコ世界ジオパーク離島及び海岸地域ワーキンググループ、隠岐ジオパーク推進協議会	申込人数	29名
概要	国連海洋科学の10年(2021年～2030年)において、日本ジオパークネットワークとしても海洋環境問題に取り組むこととしました。また、ユネスコ世界ジオパークネットワークとしても海洋環境問題に取り組むこととし、「ユネスコ世界ジオパーク離島及び海岸地域ワーキンググループ」のアクションプランの実施事項ともなっています。日本国内における活動事例を共有するとともに、海外ジオパークとの共同プロジェクトの実施を検討しました。		
内容	・分科会の開催趣旨とこれまでの経緯(野邊) ・隠岐における事例紹介(隠岐島前高校、隠岐ジオパーク推進機構) ・各地域で取り組んでいる海洋環境保全活動についての事例共有 ・継続した活動とするための課題とその対応について ・グループからの発表 ・ジオパークだからできる海洋環境問題について		
まとめ	海岸漂着ごみは海外からのゴミが多い印象があるが、ペットボトルや漁具などをみると日本のゴミも多い。自分たちが海を汚しているという意識改革が必要であり、自分事として取り組む必要がある。ゴミ回収はネガティブな印象があるが、アート活動との連携やゴミに付加価値をつけることによって、ポジティブな活動として展開することも必要である。こうした展開によって、費用面や人員不足などの課題解決にもつながるのではないかと意見にまとまりました。 ジオパークとして、ネットワークとして海洋環境問題に取り組むこととしました。		



地質物品の保護と販売～地質物品に代わる代替商品を考えよう!～

企画・運営	地質物品の収集・販売を減らすための情報発信ワーキンググループ	申込人数	33名
概要	地質物品の販売問題は、多くのジオパークが抱えている問題です。地質物品WGでは、この問題に対して継続的に議論を進めてきました。今回の分科会では、愛媛大学の榊原先生を基調講演にお呼びし、海外の事例紹介と代替製品の開発について議論しました。		
内容	・趣旨説明(糸魚川GP 小河原)・・・地質物品WGが主催する分科会の内容について説明しました。 ・基調講演(愛媛大学榊原先生)・・・「インドネシア・ジオパーク地域における貧困・環境問題解決のための代替生業開発—ゴロンタロ・ジオパークの事例—」として、基調講演をいただきました。 ・事例紹介(四国西予GP 榊山、佐渡GP 貞包)・・・四国西予ジオパークと佐渡ジオパークでの物品販売の現状と解決方法について紹介しました。 ・グループワーク(分科会参加者)・・・これまでの分科会での発表をふまえ、地質物品の販売問題についてグループワークを実施しました。		
まとめ	今回の分科会を通じて、地質物品の販売を中止し、代替商品を開発するには、地域コミュニティの協力が不可欠であることが分かりました。マルチセクター協働(MSC)では、ジオパークの理念と価値観をジオパーク関係者と地域住民で共有し繋がるのが重要です。そして、MSCの中で、文化的な(経済以外の)軸を地域に作ることで、地質物品以外の代替商品をジオパーク関係者が地域住民と共に生み出していく必要があることが分かりました。今後とも、地質物品WGでは、海外や国内の事例を分析しながら、活動を進めていきます。		



実験を用いたジオパークの教育普及活動～ジオ火山実験を通して～

企画・運営	全国火山実験研究交流会実行委員会、洞爺湖有珠山ジオパーク、北翔大学教育文化学部教育学科	申込人数	53名
概要	ジオパークは、地球の雄大なスケール感を体感することができます。しかし、大きな時間・空間スケールの現象を理解することは難しい。キッチン火山学をはじめとした実験を取り入れた教育普及手法は、難しい地学現象を目の前で手軽且つ安全に再現できるため、子どもでも実感を持った理解をすることができるプログラムです。実験を通して、何をこどもたちに考えさせるか、どのような場面で実験を活用するか、教育効果の検証などが課題です。実験を題材とした分科会として2年目となる本大会では、開催地にちなんだ「火山」の実験を通して、実際に学校教育やガイド活動などに組み込んでいる例を現場で実践している方々に事例発表していただき、実験を用いた教育活動の更なる普及と発展を目指したいと思います。		
内容	1. 趣旨説明、プログラム内容説明 2. ミニ講演:キッチン火山実験の歴史と功績:林信太郎 3. 火山実験アラカルト:代表的な火山実験のいくつかを体験してもらいます。 4. 問題提起:火山実験からジオ実験へと発展させるには?:横山光 5. グループワーク:実験をアレンジしよう 6. 総合討論:「考えた実験」の発表・交流		
まとめ	・このようにジオガイドが楽しく演出することのできるジオ実験が欲しい。 ・実験は誰にとっても楽しい教材なので、活用したい。 ・こうやってジオパークの枠を超えて、実験の話ができる場が良い。 ・実験を通してそれぞれの事象をどういうふうに伝えるか工夫が必要。 ・時間スケールの短い火山や地震は実験しやすいが、時間スケールの大きな題材も実験で扱えると嬉しい。 ・実験からどうやって自分の身を守るのか考えさせ、防災教育につなげることが大切。 ・実験を活用したジオガイド活動を広めていきたい。		



ユースセッション2025

企画・運営	JGNユースセッション運営チーム	申込人数	39名
概要	この分科会では、国内のジオパーク地域で活動を行っているユース世代(主に高校生)を対象に、交流を通じて地域と地球の未来を考える活動を行いました。参加者は引率者13名を含む45名であった。内容は「No volcanoes, no life!-地域資源を活用した持続可能な社会の構築を実現するうえで襲い掛かるリスクと課題を考える-」というテーマで、十勝岳ジオパークのサイトやビュースポットを訪問し、同ジオパークの地域資源の価値を体感しました。またそれらの持続的な活用を脅かす課題についても現地で情報を収集し、その解決方法を考えました。		
内容	・参加者を4コース・8つの班に分け、それぞれの班に現地のサイトやビュースポットで着目してほしい事柄を書いた紙(ミッションシート)を配付 ・行程に従いそれぞれ自転車もしくはバスで移動。訪問したサイトやビュースポットにおいて、ミッションシートに記載された事柄の確認や探索を実施。 ・16時10分から、美瑛町地域人材育成交流センターにおいてまとめの会を実施。各班が見学・体験してきたものと、その感想を参加者間で共有。		
まとめ	参加者がまとめの会の中で記述したコメントには、「丘だらけ」「海がどこみてもなく山だらけだった」「土がキラキラしていた」といった、十勝岳ジオパークの景観に感動したという記述が多数見られました。また「青い池はもともと観光目的ではなかったということがわかった」「144名の人命と開拓から30年の美田が一瞬にして奪われた十勝岳大噴火」という記述からは、参加者が過去にこの地域を襲った十勝岳噴火の脅威や将来の噴火への対策の必要性を認識したことが分かります。嬉しかったのは、「女将が陽気だった」「しんせつな人が多くてとてもいい町だともった」「地元食堂の温かさ・笑顔」といった、参加者が地域の人の優しさに感動したコメントが多数見られたことです。「もう一度ここに来たい」という意見も多く、ユースセッションの目的の一つである「参加者間の交流促進」は達成されたと言えます。課題はこのつながりをどう維持していくかです。		



市町村長セッション

市町村長セッションでは、十勝岳ジオパークと国土交通省北海道開発局が共同で開発した日本初の新しいツーリズム「インフラ・ジオツアー」の一部を全国の市町村長の皆様に体験していただきました。1926年(大正15年)の十勝岳噴火では火山泥流の発生により死者・行方不明者あわせて144名にのぼる大災害となりました。1988～89年にかけての噴火を受けて、「大正泥流」規模の災害の発生を防ぐため、急遽美瑛川に施工された砂防堰堤(ブロック堰堤)に、美瑛川の水が溜まって出来たのが、いまや観光地としてすっかり有名になった「白金青い池」です。この青い池や、十勝岳火山砂防情報センター、望岳台防災シェルターなどの防災インフラや、白ひげの滝などを巡り、活火山十勝岳とその防災対策、そしてそれらを観光資源として活かす取り組みを観ていただきました。



アドベンチャートラベル体験ツアー有珠山の恵みをめぐる。ーそして、2000年噴火の核心部へ			
参加人数	8名	担当ジオパーク	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会
担当ガイド	中岡 紗恵子、佐々木 美穂子、福澤 直子、荒町 美紀、江川 理恵、加賀谷 にれ		
行程	1日目 そうべつくだもの村 ▶ 昭和新山・三松正夫記念館 ▶ 湖畔サイクリング ▶ 洞爺湖温泉(宿泊・夕食:恵みの交流会) 2日目 洞爺湖温泉まち歩き(雨天のため中止) ▶ 金比羅火口群トレッキング		
内容	洞爺湖と有珠山に代表される火山景観と、そこで暮らす人の文化をたどる旅。1日目は、大地の恵み・くだもの狩り、昭和新山と三松さんの物語、洞爺湖南岸サイクリングを実施。2日目は、街歩きと2000年噴火の火口群をめぐるツアーを企画しました。雨天のため一部キャンセル、短縮コースとなったものの、参加者とアドベンチャートラベルのツアー作りについて、活発な意見交換ができました。		



生態学分科会連動巡検「とかち鹿追ジオパークのナキウサギと苔の森見学」～生き物を守るってどういうこと?～			
参加人数	7名	担当ジオパーク	とかち鹿追ジオパーク推進協議会
担当ガイド	阿久澤 小夜里、松本 宏樹、澤田 結基、大西 潤(とかち鹿追ジオパーク推進協議会)		
行程	1日目 駒止湖ガレ場(ナキウサギ生息地観察①) 2日目 とかち鹿追ジオパークビジターセンター(見学)→ ビジターセンター(分科会打ち合わせ)→東ヌブカウシヌ プリ(ナキウサギ生息地観察②) 3日目 然別湖(カヌー体験)		
内容	全国大会で開催する生態学分科会と連動した巡検。とかち鹿追ジオパークエリア内に生息するナキウサギはその可愛らしい姿から人気を博し、近年多くの登山者やカメラマンが生息地を訪れています。その影響で、生息地の環境悪化、観察者同士のトラブルなどが発生しています。その現場を参加者と巡り、ジオパークとして生態系をどのように保全していくのかを協議しました。少人数で濃密な3日間を過ごしました。		



ぐるっと日高山脈とかんらん岩探訪の旅			
参加人数	19名	担当ジオパーク	アポイ岳ジオパーク推進協議会
担当ガイド	島田 哲也、井上 隆		
行程	1日目 新千歳空港⇒新冠泥火山⇒蓬萊山⇒かんらん岩広場⇒ ビジターセンター⇒幌満自然公園⇒アポイ山荘(宿泊) 2日目 アポイ山荘⇒プレート境界と日高耶馬溪⇒えりも岬⇒ ナウマン象記念館⇒道の駅 なかさつない(昼食)⇒ 狩勝峠⇒見晴台公園⇒旭川駅		
内容	日本最大級の日高山脈襟裳十勝国立公園の景観や地質岩石と触れ合い北海道誕生のメカニズムに迫るツアーとして開催しました。ツアーは、アポイ岳ジオパークならではのかんらん岩広場やプレート境界を見学したほか、ビジターセンターではかんらん岩を使用したワークショップも行い、本ジオパークの特色を実感していただき、参加者からは「地質の説明がとてもわかりやすかった」「また同様のツアーがあれば、ぜひ参加したい」などの声が多く寄せられ、満足度の高いツアーとなりました。		



“三笠1億年のモノ語り”時間旅行ー化石×炭鉱×ワインを巡る1日			
参加人数	17名	担当ジオパーク	三笠ジオパーク推進協議会
担当ガイド	坂井 正己		
行程	JR岩見沢駅 → 三笠市立博物館 → 野外博物館(1.2km散策) → 桂沢ダム原石山 → 昼食 → 旧奔別炭鉱立坑櫓 → 山崎ワイナリー → 道の駅三笠(お買い物・トイレ休憩) → JR岩見沢駅		
内容	三笠ジオパークの主要な地域資源を巡るツアー。国内最大級のアンモナイト収蔵量を誇る三笠市立博物館から始まり、通常は立入禁止のスポットなどを通して化石や炭鉱の魅力を味わい尽くしました。山崎ワイナリーでは、ワイン造りを通じた地域との関わり方などの話を聞くことができました。参加者の方からは「もう少し滞在時間が長ければ…」「非常に有意義なツアーでした」との声があり、満足度の高いツアーとなりました。		



アイヌ文化に触れて、北海道最高峰「旭岳」と豊富な水を巡ろう!			
参加人数	12名	担当ジオパーク	大雪山カムイミンタラジオパーク構想推進協議会
担当ガイド	鳥羽 晃一、小沼 秀樹、サザーランド アレクサンダー ロックラン		
行程	1日目 旭川空港集合→旭川駅集合→神居古潭→ 川村カ子トアイヌ記念館→ワイズホテル旭川駅前(宿泊) 2日目 ワイズホテル旭川駅前発→大雪旭岳源水→旭岳ビ ジターセンター→旭岳姿見の池周辺トレッキング→天人峡 七福岩→天人峡羽衣の滝→高砂酒造→東横INN旭川駅 東口(解散)→ワイズホテル旭川駅前(解散)		
内容	アイヌの人々に伝わる伝説や大地のダイナミックな変動を感じることができる神居古潭や地球の息吹を感じる火山活動と豊かな生態系をみせてくれる旭岳等を巡りました。川村カ子トアイヌ記念館では、アイヌの伝承や踊りを見聞し、大雪旭岳源水、羽衣の滝、高砂酒造では、大雪山の恵みである豊富な水を体感いただき、本構想地域の魅力をお届けすることができました。		



火山と共生するまちをめぐる

参加人数	19名	担当ガイド	井上 文雄、佐々木 清美、菅原 元	担当ジオパーク	十勝岳ジオパーク推進協議会
行程	9月28日(日) 集合 14:50 上富良野町保健福祉総合センター かみん 出発 15:00→紙芝居読み聞かせ→土の館見学→フレンチディナー(レストラン・アスペルジュ)→ 宿泊場所(ホテル・ラヴニール) 9月29日(月) 出発8:00→白金青い池見学→十勝岳火山砂防情報センター見学→望岳台-丸谷温泉跡トレッキング(1km程度)→富良野川第二号透過型堰堤見学→ノースグランパー富良野 昼食(BBQ)→十勝岳爆発記念公園見学→ NPO法人野山人「泥流の証明」見学→開拓記念館見学→農園見学→ジェットコースターの経路→ 解散(17:05 美瑛駅もしくは 17:30 旭川空港)				
内容	火山噴火による泥流災害の痕跡を巡り、自然の脅威を知ると同時に、どのようにこの地域の人々が火山と共生しているか学びながら火山のあるまちを楽しんでいただくツアーを催行しました。1日目、地域団体による紙芝居で火山災害から復興の物語と土の館では泥流の土壌標本を鑑賞しました。夕食は美瑛農畜産物のコース料理を食べました。2日目、噴火の痕跡、防災関係施設等を巡り火山との共生のまちを紹介しました。昼食は、上富良野焼肉文化のまち名物豚サガリとふらの和牛でBBQをしました。				



秋の十勝岳トレッキング&美瑛パノラマサイクリング

参加人数	14名	担当ガイド	青野 範子、有本 良典、中田 晴久	担当ジオパーク	十勝岳ジオパーク推進協議会
行程	9月28日(日) 集合 14:35 上富良野町保健福祉総合センター かみん 出発 14:45→十勝岳望岳台 見学→宿泊場所(湯元 凌雲閣)→美瑛軟石ラベンダーオイルストーン制作→交流会 9月29日(月) 出発8:20→ヌッカクシ火口コーストレッキング約3km→後藤純男美術館 昼食(ポークソテー)→ 丘のサイクリング約3km→解散(16:55 美瑛駅もしくは 17:15 旭川空港)				
内容	初日は、美瑛軟石と上富良野町産ラベンダーオイルを用いたオイルストーン制作で、地域の歴史と香りを体験。夜は、北海道最高標高の宿、湯元 凌雲閣にて温泉を堪能。 二日目は、午前中にヌッカクシ火口までトレッキングを行い、火山の壮大さを肌で感じ、午後は丘陵地帯をサイクリング、火砕流堆積物が作り出した丘の雄大な規模を体感。 参加者からは「興味深い地形を巡る事が出来た事が印象深かった」、「地球と一体となる体感があった」との感想が上がりました。				



彩りの丘と森の息吹を五感で楽しむジオツアー

参加人数	14名	担当ガイド	小倉 博昭、森 公子、岩淵 桃代、山崎 あずさ、日比野 功宜	担当ジオパーク	十勝岳ジオパーク推進協議会
行程	9月28日(日) 集合 14:50 上富良野町保健福祉総合センター かみん 出発 15:00→拓真館見学→丘のPATCHワークウォーキングミニコース3km(ファームズ千代田周辺)→ ストレッチと大地を感じるグラウンディング→ファームズ千代田 夕食(ビーフシチュー)→宿泊場所(菜摘実の里) 9月29日(月) 出発8:00→白金青い池見学→原生林フォレストジオコーストレッキング約4km→昼食 パークヒルズ(びえい産エゾシカ肉生姜焼き定食)→望岳台周辺見学→巨木の森の森林浴と山ヨガストレッチ→ 吹上温泉入浴(白銀荘)→解散(17:20 美瑛駅もしくは 17:45 旭川空港)				
内容	十勝岳ジオパークの魅力である波状丘陵と十勝岳連峰山麓の森を感じていただくためのツアーを開催しました。丘の台地に寝そべるグランディングや、十勝岳山麓の様々な年代の噴火から再生した森を渡り歩くトレッキングを楽しみました。最後の吹上温泉入浴時に局所的な大雨が降ったため、新鮮な空気を吸いながら行う山ヨガが短縮バージョンとなってしまったが、疲れた体を温泉で癒す時間が多くなり、コース全体を通して楽しんでいたけました。				



十勝岳の恵み」体感ツアー

参加人数	12名	担当ガイド	大道 千アキ、柴田 真由美、本郷 歩	担当ジオパーク	十勝岳ジオパーク推進協議会
行程	9月28日(日) 集合 14:50 上富良野町保健福祉総合センター かみん 出発 15:00→サッポロビール研究所見学→BBQ→宿泊場所(フラヌイ温泉)→町内スナック(任意) 9月29日(月) 出発8:45→多田農園 ぶどう収穫体験、ワイン造り体験・試飲→昼食 美瑛ナカマチプラス→ 横山農園 農場見学・収穫体験→解散(15:20 美瑛駅もしくは 15:50 旭川空港)				
内容	1日目は上富良野町が原料(ホップ・大麦)を契約栽培しているサッポロビール原料開発研究所様見学と試飲。屋外テントでのかみふらのポーク、美瑛牛BBQ・地元スナックでの地域の方々との交流。2日目はワイナリーにてぶどう収穫体験とワインランチ。美瑛町の牧場の広大な牧草地でしぼりたての牛乳をいただき十勝岳ジオパークの豊かな自然遺産と農業の魅力・北海道らしさを存分に堪能していただくツアーとなりました。				



ポストツアー報告

十勝岳&火山の恵み満喫コース					
参加人数	20名	担当ガイド	國枝 孝行、大西 直美、清田 英之、三原 康敬	担当ジオパーク	十勝岳ジオパーク推進協議会
行程	9月28日(日) 集合 14:35 上富良野町保健福祉総合センター かみん 出発 14:45→青い池見学→美瑛川第1号堰堤見学→宿泊場所(十勝岳温泉カミホロ荘) ※天気良ければ星空観察会 9月29日(月) 出発8:00→十勝岳トレッキング(白銀荘-望岳台コース/約3km)→まるます 昼食(カルビ豚サガリ定食)→美瑛の丘ミニトレッキング約1km→拓真館(前田真三写真館) 見学→ファームズ千代田(美瑛ジャージーソフトクリーム等)→美瑛選果→解散(17:00 美瑛駅もしくは 17:30 旭川空港)				
内容	初日には前回の噴火以降に進む防災事業の現在、翌午前には実際に山麓を歩き噴火の歴史の痕跡と十勝岳の大自然を、午後には十勝岳形成以前の大噴火からの火砕流から形成された波状丘陵を歩き、このエリアの特徴を時間(歴史)を遡る形で、参加された皆様に体感頂きました。火山による災害のみでなく、火山活動と人の営みとが合わさった結果もたらされたこの地域の多くの美しい景観や豊富な食、癒しスポットについてもご紹介することができ、コース名“十勝岳を満喫”の通り、欲張りなツアーとなりました。				



とかち鹿追ジオパークの見どころガイドツアー					
参加人数	6名	担当ガイド	真神 参太・阿久澤 小夜里	担当ジオパーク	とかち鹿追ジオパーク推進協議会
行程	とかち鹿追ジオパークビジターセンター見学 →然別風穴地帯 →駒止湖ガレ場				
内容	とかち鹿追ジオパークの代表的な見どころを3時間でご案内するツアーを催行しました。まずはとかち鹿追ジオパークビジターセンターで土地の成り立ちや風穴の仕組み、営まれている人や野生動植物の暮らしを紹介、その後風穴地帯やナキウサギ生息地を見学しました。				



口頭発表

会場	セッション名	発表時間	発表番号	発表者	所属	発表タイトル	ジオパーク名
1	小中高校生	9:45~10:00	J01	小野 大歓、豊浦 一二三、渡邊 心	島根県立隠岐島前高等学校	島前漂着ごみプロジェクト	隠岐
		10:00~10:15	J02	大下 真生、嶋田 愛華、廣野 みく、古里翔汰	京都府立丹後緑風高等学校網野学舎	「ジオいく!!~南北から東西へ~」	山陰海岸
		10:15~10:30	J03	岡崎 勘汰、利重 絵里、宗内 銀河	美祿青嶺高校	秋吉台の過去と未来を繋ぐ~持続可能な「山焼き」の取組~	Mine 秋吉台
		10:30~10:45	J04	薦原 未夢羽、平見 聖、上村 桂	和歌山県立熊野高等学校	Heartful action! 高校生がつなぐ南紀熊野ジオパークと地域の未来	南紀熊野
		10:45~11:00	J05	辻本 柚菜、中島 萌那、山崎 直美	高知県立室戸高等学校	室戸で劇を公演中!~大地のなりたちを園児へ。15人が繋ぐ想い~	室戸
2	小中高校生	9:00~9:15	J06	石金 美海、高木 ももか	市立銚子高等学校	ちんちえー魚でいっぺー幸せ~出会いが生んだ奇跡の町銚子~	銚子
		9:15~9:30	J07	二本柳 大志、能渡 佳有理、鎌田 彩綺	青森県立大湊高等学校	下北の魅力を世界へ発信するために~高校生が運営する持続可能な情報発信手法の検討~	下北
		9:30~9:45	J08	味戸 蒼大、味戸 姫愛、岡田 のり愛、加藤 愛里、勢志 優梨奈、原田 蓮兎	遠軽町立白滝中学校	黒曜石と先人、そして私たちへ~白滝の魅力発信!!	白滝
		9:45~10:00	J09	岩城 芽杏、江面 野乃花、菊池 優那	遠軽町立白滝中学校	黒曜石の原点、白滝~国宝の魅力を支える素材の正体と石器文化	白滝
		10:00~10:15	J10	大廣 恭志、五十嵐 美咲	北海道伊達開来高校	有珠山における噴火後の動物相の遷移経過年数及び森林施業形態別での比較と分析	洞爺湖有珠山
		10:15~10:30	J11	島田 奏、永田 悠人、鈴木 結月、池田柚咲、工藤 朱里、小島 妃代	上富良野小学校	北海道の大自然で体験しよう	十勝岳
		10:30~10:45	J12	牛島 蓮温、田原 有奈、大道 翔平、平手杏露、佐藤 杏南	上富良野高等学校	かみふの森	十勝岳
		10:45~11:00	J13	袴田 優里那、笠松 李吹、清原 麗衣、佐々木 飛馬、高木 大翔	上富良野高等学校	ふるさと納税で豚サガリを全国へ!!	十勝岳
3	教育	9:00~9:15	E1	金田 皓樹	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会	小中学校の教科書におけるジオパーク情報の掲載率について	洞爺湖有珠山
		9:15~9:30	E2	坂本 貴啓	金沢大学人間社会研究域地域創造学系/金沢大学先端観光科学研究所/白山手取川ジオパーク推進協議会学術会議	世界の水教育拠点としての白山手取川ジオパークでの河川教育活動	白山手取川
		9:30~9:45	E3	中谷 陽、坂本 貴啓、赤瀬 涼香、古川耕太郎、松尾 俊来、金谷 有喜	金沢大学大学院新学術創成研究科総合知創出科学専攻/金沢大学先端観光科学研究所/しらみね大学村	白山手取川ジオパーク地域における地域連携拠点としての大学サテライトの役割	白山手取川
		9:45~10:00	E4	里 嘉千茂、福士 幸枝、笹原 祐起、橋浦 優香	岩手県山田町役場	岩手県山田町(三陸ジオパーク構成自治体)における津波防災教育活動の事例紹介	三陸
		10:00~10:15	E5	盛合 秀、土澤 智、田中 宣廣、千葉 洋平、桜田 功	三陸ジオパーク推進協議会	三陸ジオパーク推進協議会と岩手県立大学宮古短期大学部との連携によるジオパーク学習の実践例	三陸
		10:15~10:30	E6	安藤 和也、小矢野 悠造、金山 恭子、松本 和彦、久野 翼	鳥取県立山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館	山陰海岸ジオパーク海と大地の自然館の教育普及活動	山陰海岸
		10:30~10:45	E7	野津 優	隠岐ジオパーク推進機構	隠岐ユネスコ世界ジオパークにおける教育活動	隠岐
		10:45~11:00	E8	長谷川 修一	讃岐ジオパーク構想推進準備委員会	小豆島オリーブ公園における災害復興ジオストーリー	せとうち 讃岐
		11:00~11:15	E9	谷 俵太	ACADEMIC VISION LLC	劇場型知的冒険ライブイベント「ACADEMIC LIVE!」の提案	その他
4	ガイド活動とツーリズム	9:00~9:15	G1	山本 正樹	一般社団法人鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会	JR東日本秋田支社との取り組みについて	鳥海山・飛島
		9:15~9:30	G2	小松 正人	(一社)美しい伊豆創造センター	AIを活用した“伝わる”英語ガイドの実践-インバウンド対応における表現の工夫-	伊豆半島
		9:30~9:45	G3	堤 麻理	(一社)美しい伊豆創造センター	次世代ジオガイドとして歩む道~子育て・仕事・ガイドの両立を目指して~	伊豆半島
		9:45~10:00	G4	長谷川 浩司、下田 秀一	鳥取県自然体験塾	山陰海岸ジオパークにおけるアドベンチャートラベル(鳥取編)	山陰海岸
		10:00~10:15	G5	木村 幸子	Mine秋吉台ジオパーク	やさしく伝えるためのデザイン	Mine 秋吉台
		10:15~10:30	G6	柿崎 喜宏、室戸市観光ガイドの会、南紀熊野ジオパークガイドの会、新名 阿津子	室戸ジオパーク推進協議会	室戸ジオパークのガイド養成講座	室戸
		10:30~10:45	G7	姥 千恵子、高田 昌志	桜島ジオサルク	今こそ地域を超えてガイドがスキルアップ!~TORE理論を用いたガイド勉強会の有効性~	桜島・錦江湾
		10:45~11:00	G8	加藤 淳也	WHILL株式会社	だれもが楽しめるジオパーク-近距離モビリティウィルの可能性-	その他

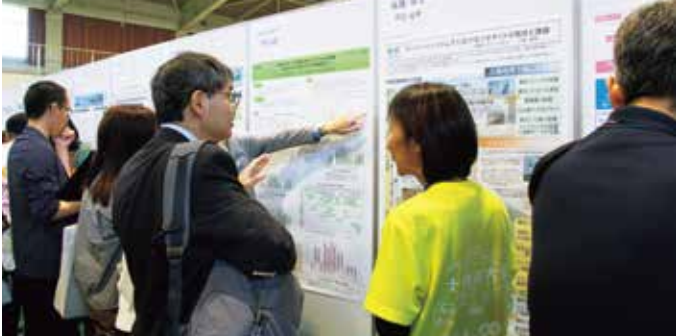
口頭発表

会場	セッション名	発表時間	発表番号	発表者	所属	発表タイトル	ジオパーク名
5	持続可能な地域づくり	9:00～9:15	S1	木藤 誠	八峰白神ジオパーク	秋田県ジオパーク連絡協議会の取り組み	八峰白神
		9:15～9:30	S2	小河原 孝彦、 ブラウン セオドア、小林 猛生	糸魚川ユネスコ 世界ジオパーク	日本ジオパークの審査制度における 課題と展望	糸魚川
		9:30～9:45	S3	森内 裕之	立山黒部 ジオパーク協会	地域活性化へのアプローチ ーサイト保護・活用を通してー	立山黒部
		9:45～10:00	S4	朝倉 一哉	(一社)美しい伊豆 創造センター	～海と人をつなぐジオガイド活動 ～平沢マリンセンターの挑戦	伊豆半島
		10:00～10:15	S5	光武 ひかる	山陰海岸ジオパーク 推進協議会	山陰海岸ジオパークの認知向上への挑戦 ～Instagramの活用～	山陰海岸
		10:15～10:30	S6	山田 久和、殿谷 梓、 大境 克典	三好ジオパーク	三好ジオ暮らし方カレッジの実践 ～大地と暮らしを学ぶ人材育成プログラム～	三好
		10:30～10:45	S7	榊山 匠、藤原 正典、川崎 壽 洋、手銭ひとみ、田崎 健太、 井角 圭佑、中村 忠史	四国西予ジオパーク 推進協議会	小型ロボットの活用による肢体不自由者の 就労機会創出の試み	四国西予
		10:45～11:00	S8	石川 徹	霧島ジオパーク	ジオパークを続けていくために大切なこと :特に事務局スタッフの問題	霧島
		11:00～11:15	S9	栗原 憲一	株式会社ジオ・ラボ	「伝える」を仕組み化する～ライター育成講座 とジャーナル発行に向けた取り組み～	その他
6	保護・保 全	9:00～9:15	P1	加藤 聡美	アポイ岳ジオパーク	2007年からアポイ岳ジオパークが 取り組んできたこと、今後の課題	アポイ岳
		9:15～9:30	P2	鈴木 和人、鈴木 悟	八峰白神ジオパーク	岩礁は貴重なジオパークの資源	八峰白神
		9:30～9:45	P3	笠間 友博、荒木 藍、市川 燈	箱根ジオパーク 推進協議会	箱根ジオパークサイト保全計画策定の 事例紹介	箱根
		9:45～10:00	P4	赤瀬 涼香、古川 耕太郎、松尾 俊 来、金谷 有喜、中谷 陽、坂本 貴啓	金沢大学融合学域観光 デザイン学類/しらみね大学村	白山手取川ジオパーク地域における自然知を活用した 大学生による伝統文化継承ー報恩講料理づくりを事例にー	白山手取川
		10:00～10:15	P5	佐野 恭平	兵庫県立大学 (山陰海岸ジオパーク)	トレイルカメラを用いた地質遺産 簡易モニタリング手法の開発・実践と課題	山陰海岸
		10:15～10:30	P6	貴志 壮大	和歌山大学観光 学研究科	AHP法によるステークホルダーの 意思を考慮したジオサイト評価	南紀熊野
		10:30～10:45	P7	中山 瀬那	隠岐ジオパーク 推進機構	隠岐ジオパークの保全活用 計画策定について	隠岐
		10:45～11:00	P8	土井 恵治	(一社)土佐清水ジオ パーク推進協議会	WebGISを活用したジオサイトマップ	土佐清水

口頭発表



ポスター発表



ポスター発表

セッション名	発表番号	発表者	所属	発表タイトル	ジオパーク名
小中 高校 生	PJ-01	北村悠貴、樋口翼	美瑛高等学校	融雪剤散布ドローンの研究	十勝岳
	PJ-02	森口 桃花、原 心羽、嶋崎 愛結奈、花岡 来夢、 大畠 真也	上富良野高等学校	ちょっと待って!上富の町に寄っていかない?	十勝岳
	PJ-03	村上 愛留、菊地 羽玖、佐々木 蒼生、 谷崎 冬真、瀧本 希望	上富良野高等学校	富良野じゃねえよ!上富良野の お祭り紹介!	十勝岳
	PJ-04	高橋 笙、松居 椿、小坂 優聖	上富良野高等学校	高校生でも遊べる場所がほしい ～高校生に寄り添った町作り～	十勝岳
	PJ-05	杉本 裕哉、武部 史駈、添田 理央	上富良野高等学校	公園革命	十勝岳
	PJ-06	添田 のあ、五十嵐 大気、羽澤 成未、 岸山 穂乃花、井村 光志	上富良野高等学校	腹ペコマップ	十勝岳
	PJ-07	目黒 玲花、下村 将人、西塚 樹生、松田 悠来	上富良野高等学校	上富良野の温泉	十勝岳
	PJ-08	三多田 優磨、多田 幸生、宮尾 星、村上 大和、 小島 梓紗	上富良野高等学校	石の意思表示	十勝岳
	PJ-09	片岡 賢汰、工藤 百華、 金子 陽翔、名和 有彩	上富良野高等学校	かみふの絶景	十勝岳
	PJ-10	松谷 心、村上 優花、佐藤 佑、 今井 翔磨	上富良野高等学校	駆けめくれカミフラノ!	十勝岳
	PJ-11	大仲 美月、木幡 夏希、坂本 友琉璃、瀬戸 紫乙梨、 田中 颯馬、穂山 昂弘、中村 幸恵、半谷銀治、金森晶作	鹿追町立瓜幕中学校	鹿追町立瓜幕中学校ジオパーク探究学習「エゾナキウサギ生 息地のオーバーユース問題」をテーマとして	とちか鹿追
	PJ-12	浅野 翠、井端 悠人、清宮 泰成、金須 碧生、 穂山 昂弘、中村 幸恵、半谷 銀治、金森 晶作	鹿追町立瓜幕中学校	鹿追町立瓜幕中学校ジオパーク探究学習 「気候変動」をテーマとして	とちか鹿追
	PJ-13	浅野 季、沖 いろ葉、齋藤 治、梨木 ジャスミン凛鈴、 穂山 昂弘、中村 幸恵、半谷 銀治、金森晶作	鹿追町立瓜幕中学校	鹿追町立瓜幕中学校ジオパーク探究学習 「女性・ジェンダー平等」をテーマとして	とちか鹿追
	PJ-14	五日市 ひなた、児玉 周太郎、 瀧澤 竜生、堀川司、喜田 安寿	様似町立様似中学校	地元愛不足?これで解決!	アポイ岳
	PJ-15	大澤 心乃美、齋藤 愛里咲、 外崎 寛太、沼崎悠史、向井 琉花	様似町立様似中学校	様似普及作戦	アポイ岳
	PJ-16	佐原 綾菜、高木 心優、古川 佑奈、 堀川 涼音、山崎 莉果	様似町立様似中学校	衝撃!様似の特産物	アポイ岳
	PJ-17	大井 莉愛、菊地 紗寧、澤田 暁、中村 藍花	様似町立様似中学校	安心をつくる第一歩	アポイ岳
	PJ-18	大畑 琉空、黒岩 拡寧、野口 心太郎、 青木 美咲、内藤 咲陽、山口 百瀬	群馬県立端恋高等学校	浅間山と私たちの生活	浅間山北麓
	PJ-19	上田 麗菜、中川 凜香、川上 奈々	白山手取川ジオパーク (石川県立鶴来高等学校)	白山手取川ユネスコ世界ジオパークを未来へ! ～ゲームで広めるジオパーク～	白山手取川
	PJ-20	稲毛 健人、森口 健太	鹿児島県立喜界高等学校	喜界島の完新世サング礁段丘Ⅲ面におけるハマサンゴ化石の 成長速度	喜界島
	PJ-21	辻村 颯汰、志垣 祐輔	鹿児島県立喜界高等学校	喜界島の地形の中にあるものから 過去の喜界島の環境を知る	喜界島
教育	PS-01	大西 潤、 とちか鹿追ジオパーク推進協議会幹事会	とちか鹿追ジオパーク推進協議会	とちか鹿追ジオパークの保全教育活動	とちか鹿追
	PS-02	佐々木 和恵	洞爺湖有珠山ジオパーク	立ち上げた「防災ユニバーサルデザインチーム」とそのねらい ～心に寄り添う防災をめざしてのチームづくり～	洞爺湖有珠山
	PS-03	清水 北斗	鏡石町立第一小学校	東北地域のジオパークと社会教育施設の連携 ー文献による基本調査とインタビュー調査からの考察ー	磐梯山
	PS-04	仁木 和久	筑波山地域ジオパーク	GTP (LLMs) やITアプリのGeo教育やGeo活動への活用	筑波山地域
	PS-05	本多 力斗	浅間山北麓ジオパーク	浅間山北麓地域におけるアイヌ語的地名の痕跡 ー地名から読み解く文化・地形・先住民の記憶ー	浅間山北麓
	PS-06	肥沼 隆弘	小鹿野町教育委員会 生涯学習課 文化財担	ジオパーク拠点施設における博物館機能の強化	秩父
	PS-07	谷 圭司	小田原の自然を学ぶ会	ジオパークの視点を取り入れた自然観察会の実践	箱根
	PS-08	山川 隆良、荒木 藍	箱根ジオミュージアム	火山地形の立体的理解を促す体験型教材の開発 及び効果検証	箱根
	PS-09	五十嵐 誠	苗場山麓ジオパーク	ジオパーク学習の実践 ～10年の歩み～	苗場山麓
	PS-10	五十嵐 薫、Alejandro Isidro Martinez Sanchez、 勝身 麻美、郡山 鈴夏	次世代ユネスコ国内委員会、 長岡技術科学大	長岡技術科学大学「SDGsプロモーター」と 「糸魚川ユネスコ世界ジオパーク」のVR教材開発による連携	糸魚川
	PS-11	王生 透、鍋谷 良和、今堀 喜一	黒部市	YKK APが支援するハーバード大学のランドスケープ研究への 協力について	立山黒部
	PS-12	前 琴美	白山手取川ジオパーク推進協議会	白山手取川ジオパークの新たな教育活動事業について	白山手取川
	PS-13	餅田 修一、普照 豊	白山手取川ジオパーク	白山手取川ジオパーク学習をサポートする学習支援員	白山手取川
	PS-14	カク シセン	山陰海岸ジオパーク推進協議会	山陰海岸ジオパーク学術助成の成果と課題	山陰海岸
	PS-15	川村 教一	兵庫県立大学	山陰海岸ジオパークにおける防災教育ジオツアー	山陰海岸
	PS-16	小西 清一	山陰海岸ジオパーク	山陰海岸ジオパーク拠点施設としての取り組み	山陰海岸
	PS-17	甲山 航太	串本町	ジオパークの普及活動とラムサール条約登録湿地の 保護について	南紀熊野
	PS-18	此松 昌彦	和歌山大学 (南紀熊野ジオパーク)	微地形表現した陰陽図からわかる南紀熊野ジオパークの地形 の特徴	南紀熊野
	PS-19	芝崎 浩子	南紀熊野ジオパークガイドの会	南紀熊野ジオパークにおけるマグマ関連実験の実践例	南紀熊野
	PS-20	仲江 孝丸	南紀熊野ジオパーク	貝砂ワールド 南紀熊野のでっかい海のちっちゃな世界	南紀熊野
	PS-21	中山 瀬那	隠岐ジオパーク推進機構	隠岐ジオパークのいわさんば	隠岐
	PS-22	入月 俊明、島根大学いげおこしプロジェクト 担当者・松江市ジオパーク推進室職員	島根大学	島根大学における「いげおこしプロジェクト」と ジオパーク教育	島根半島・ 宍道湖中海
	PS-23	濱田 真実、島井 夏希・入月 俊明・阿部 國廣	島根大学	地学とまちの縁結び: 人・地域・未来をつなぐジオパーク活動	島根半島・ 宍道湖中海
	PS-24	白井 孝明、堀成夫、井上健助、 伊達千絵、石飛一枝	萩ジオパーク推進協議会	主体的な学びの共同体 ー萩ジオパーク・フィールドラボ	萩
	PS-25	篠原 五良	讃岐ジオパーク構想推進準備 委員会	民話・妖怪伝説と大地の成り立ちをつなぐ防災教育 ージオの目で地域を見直し、先人たちのメッセージを語り継ぐー	せとうち讃岐
	PS-26	工藤 邦史	室戸ジオパーク推進協議会	高校カリキュラムにおける「ジオパーク授業」と 地域住民との協働	室戸
	PS-27	土井 恵治、松原 誠、 日本地震学会ジオパーク支援委員会	(一社)土佐清水ジオパーク 推進協議会	日本地震学会によるジオパーク活動支援	土佐清水
	PS-28	富永 弘平、渡会紀和、土井恵治、森口夏季	土佐清水ジオパーク推進協議会	土佐清水ジオパークにおける中学校総合学習の 学習効果の検証	土佐清水
	PS-29	吉瀬 毅	桜島・錦江湾ジオパーク	火山と人と自然の共生を考古学から読み解く 桜島・錦江湾ジオパークの実験的展示	桜島・錦江湾
	PS-30	鈴木 比奈子、日本地理学会ジオパーク 対応委員会	専修大学	地理学の視点からジオパーク活動を支える ー日本地理学会ジオパーク対応委員会の活動ー	その他
	PS-31	本多 うらら、五十嵐 薫	次世代ユネスコ国内委員会	次世代ユネスコ国内委員会の紹介	その他

ポスター発表

セッション名	発表番号	発表者	所属	発表タイトル	ジオパーク名
ガイド活動とツーリズム	PS-32	青野 範子	十勝岳ジオパーク推進協議会	十勝岳ジオパークのジオツーリズム	十勝岳
	PS-33	井上 文雄	十勝岳ジオパーク推進協議会	紙芝居を利用したガイドについて	十勝岳
	PS-34	荒町 美紀、佐々木 美穂子	洞爺湖有珠山ジオパーク	ここでしか出会えない景色と物語 ～火山・歴史・秘境をめぐるガイドコース～	洞爺湖有珠山
	PS-35	横山 光、鈴木 比奈子、佐藤 鉄也	北翔大学	ジオガイドが主体的に行うジオツアー開発・火山啓発活動への支援 ～栗駒山麓ジオパークガイドの会と共に～	栗駒山麓
	PS-36	高尾 実可子、太田 圭、伊藤 直子、竹内 弘和	男鹿市文化スポーツ課	ジオガイドが温風穴を発見！ DMOと連携した冬のほかほかジオツアー	男鹿半島・大湯
	PS-37	吉田 健一	秩父まるとジオパーク推進協議会事務局	秩父のジオツーリズム・最近の動き	秩父
	PS-38	上田 脩郎、岩本 直哉、常世田 優紀	銚子ジオパーク	「銚子にぎわい漁師町活性協議会」との連携活動	銚子
	PS-39	小笹 直人、山川 隆良、押山 隆	箱根ジオミュージアム	拠点施設におけるジオガイドとの連携活動	箱根
	PS-40	貞包 健良	佐渡ジオパーク推進協議会	遊覧船を活用したジオパークイベント例	佐渡
	PS-41	古川 耕太郎、松尾 俊来、金谷 有喜、中谷陽、赤瀬 涼香、坂本 貴啓	金沢大学融合学域先端学類/しらみね大学村	白山手取川ジオパーク資源を活用した観光商品開発の試み	白山手取川
	PS-42	高橋 明海、藤井 妙子	Mine秋吉台ジオパーク	誰もが楽しめるユニバーサルジオツアー	Mine秋吉台
	PS-43	下川 純代、多田 恵二	三好ジオパーク	地域を繋ぎ、人を繋ぐ ジョガイド活動の工夫	三好
	PS-44	秋山 玲美	讃岐ジオパーク構想推進準備委員会	せとうち讃岐の「ジオグルメマップ」の提案	せとうち讃岐
	PS-45	堺 喜久美、齒染尾 巳知子	室戸市観光ガイドの会	ガイドのバッグの中身	室戸
	PS-46	石川 徹	霧島ジオパーク	アメリカ合衆国国立公園に学ぶ：ジオパークとの比較研究	霧島
	PS-47	岩下 江里、図師 聖士、西島 昭治	霧島ジオパーク	霧島ジオパークにおけるユニバーサルデザインを考える：車椅子を使ったツーリズム研修会の取り組み	霧島
	PS-48	西尾 建、脇田浩二、牛丸恵利、奥田勘太郎	山口大学	高齢者・車いす利用者にやさしいジオパークの散策マップ作成 ～利用者目線による情報整備とマップ作成の試み	その他
持続可能な地域づくり	PS-49	和田 恵治、中谷 良弘、野口 昌宏、間所 真沙美	大雪山カムイミントラジオパーク構想推進協議会	ジオパーク活動の理念と目的を考える ～北海道・上川中部地域のジオパーク構想の活動を経験して～	大雪山カムイミントラ
	PS-50	金森 晶作	とかち鹿追ジオパーク推進協議会	吉田初三郎筆「鹿追村鳥瞰図」原図の発見	とかち鹿追
	PS-51	川南 恵美子、岡田 夏美	洞爺湖有珠火山マイスター防災士	簡易地震計設置と観測状態の報告	洞爺湖有珠山
	PS-52	関谷 友彦、神戸 進一	下仁田ジオパーク	下仁田ジオパークの無形文化	下仁田
	PS-53	臼井 里佳	東京都大島町	ようこそ！ 伊豆大島ミュージアム ジオノスへ！	伊豆大島
	PS-54	佐藤 剛志	東京都大島町	拠点施設整備を失敗しないために	伊豆大島
	PS-55	荒木 藍、小笹 直人、小宮 良枝	箱根ジオパーク推進協議会	地域内図書館から発信する箱根ジオパーク活動事例	箱根
	PS-56	泉屋 孝子、日々野 剛	白山手取川ジオパーク	白山手取川ユネスコ世界ジオパーク専用拠点の開設に向けて	白山手取川
	PS-57	金谷 有喜、中谷 陽、赤瀬 涼香、古川 耕太郎、松尾 俊来、坂本 貴啓	金沢大学人間社会学域地域創造学類しらみね大学村	白山手取川ジオパーク連携協定締結団体としての大学生団体の役割	白山手取川
	PS-58	松尾 俊来、金谷 有喜、中谷 陽、赤瀬 涼香、古川 耕太郎、坂本 貴啓	金沢大学融合学域先端学類しらみね大学村	白山手取川ジオパークを活用した賑わい創出イベント『水辺で乾杯 in 白山・手取川』	白山手取川
	PS-59	花園 誠、前野 和泉、堂本 隆司、山口 清、館野 誠、水越 誠、杉本 信一、杉本 泰廣、水上章司、佐渡 忠行、村上 信行	やまなし上野原ジオパーク構想推進協議会	獣害は“自然災害”か？ ー地形・生態・暮らしの相互作用からみる上野原モデルー	やまなし上野原
	PS-60	成田 浩一	豊岡市観光文化部	コウノトリ野生復帰から20年	山陰海岸
	PS-61	西田 昂平	和歌山県(南紀熊野ジオパーク)	地域とともに歩む ～推進事業者との連携強化と協働の形～	南紀熊野
	PS-62	井上 双葉	Mine秋吉台ジオパーク推進協議会	地域とジオパークをつなぐパートナー制度の取り組み事例	Mine秋吉台
	PS-63	ウィルソン ジョアナ、脇田 浩二	Mine秋吉台ジオパーク推進協議会	Mine秋吉台ジオパークの国際交流活動	Mine秋吉台
	PS-64	篠原 由美子	Mine秋吉台ジオパーク	Mine秋吉台ジオパークにおける別府弁天池での地域資源を活かした商品開発	Mine秋吉台
	PS-65	鶴田聖子	讃岐ジオパーク構想推進準備委員会	「せとうち讃岐ジオパーク構想」の活動報告	せとうち讃岐
	PS-66	山西 輝美	讃岐ジオパーク構想推進準備委員会	狛犬から見える小豆島の石の文化	せとうち讃岐
	PS-67	堀内 悠、岩本 寿美、山下 義彦	おおいた姫島ジオパーク推進協議会	地域の文化や習慣の維持と継承のための取り組み	おおいた姫島
保護 保全	PS-68	中村 真介	株式会社ジオ・ラボ	日本ジオパーク全国大会のプログラムの変遷 ー第1回から第14回までの大会報告書からー	その他
	PS-69	大西 直美	十勝岳ジオパーク推進協議会	オーバートーリズム下におけるジオサイトの現状と課題	十勝岳
	PS-70	高橋 誠、上口 壮太	三笠ジオパーク推進協議会	三笠ジオパークにおける炭鉱遺産の保全・保護および記録資料の保存について	三笠
	PS-71	原田 拓也、河合 貴之、佐藤 英和、嶋田 哲郎、目代 邦康	栗駒山麓ジオパーク推進協議会	栗駒山麓ジオパークにおける保護・保全指針の策定と今後の活用	栗駒山麓
	PS-72	鈴木 和人、鈴木 悟	八峰白神ジオパーク	岩礁は貴重なジオパークの資源	八峰白神
	PS-73	長船 裕紀	一般社団法人 鳥海山・飛鳥ジオパーク推進協議会	鳥海山・飛鳥ジオパークにおけるアメリカザリガニとウシガエル分布拡大と地域への脅威ー在来生態系と文化的景観を守るためのジオパークの取り組みー	鳥海山・飛鳥
	PS-74	高柳 春希	湯沢市ジオパーク推進協議会	ドローンを用いたフォトグラメトリと3dプリンティングの組合せによる地形情報の保存と活用の可能性：秋田県湯沢市山田蓮台寺露頭を例に	ゆざわ
	PS-75	杉原 薫	筑波山地域ジオパーク	筑波山地域ジオパークのサイト等の再定義と見直しについて	筑波山地域
	PS-76	松原 典孝	兵庫県立大学	山陰海岸ジオパークにおけるこれまでの“ジオサイト”の定義とその見直し～管理者側からの視点で～	山陰海岸
	PS-77	馬場 淳也	南紀熊野ジオパーク推進協議会	南紀熊野ジオパークと日本遺産「鯨とともに生きる」との連携	南紀熊野
	PS-78	福村 成哉	南紀熊野ジオパーク推進協議会	ジオパーク看板のDIY	南紀熊野
	PS-79	山崎 徳雄	南紀熊野ジオパーク推進協議会	美瑛の開拓に携わった和歌山県人 ～十勝岳ジオパークと南紀熊野ジオパークの縁～	南紀熊野
	PS-80	小原 北士	Mine秋吉台ジオパーク推進協議会	Mine秋吉台ジオパークのユネスコ世界ジオパーク新規認定審査までの活動履歴	Mine秋吉台



9月27日(土)、道の駅びえい「丘のくら」とbi.yell(ビ・エール)を会場に物産展「丘と彩りのふれあいマルシェ」を開催しました。地域内外から16の事業者にご出店(出展)いただきました。地域の人気飲食店や体験ブース、全国のジオパークから集めた特産品が並び、延べ900名の来場者の方々に十勝岳ジオパークの恵みを存分に堪能いただいた催しとなりました。



出店一覧

Enjoy

- 1 公益財団法人イオン環境財団
- 2 株式会社ジオ・ラボ／株式会社KOO
- 3 国立研究開発法人 防災科学技術研究所
- 4 フラヌイウングル
- 5 特定非営利活動法人有珠山周辺地域ジオパーク友の会
- 6 アジア航測(株)×(株)ウェザーコック
- 7 旭川地方気象台
- 8 火山からのおくりもの：十勝石(黒曜石)
- 9 アポイ岳ジオパーク(北海道様似町)
- 10 大雪山カムイミントラジオパーク構想推進協議会
- 11 大雪青少年交流の家

Shopping

- 1 てらてらの丘
- 2 咖喱屋アマデウス
- 3 cope café
- 4 おいしい理由。
- 5 フード&産直 あつまれ
- 6 GEO SHOP(ジオショップ)【丘のくら内】



9月28日(日)、前日から場所を上富良野町役場前特設会場に移し、物産展を開催しました。地域内外から34の事業者にご出店(出展)いただきました。上富良野会場では、地域のイベント「収穫祭」と同時開催したことで、ジオパーク関係者以外にも多くの地域の方々の来場(延べ1,300名)があり大いに盛り上がりを見せました。



出店一覧

Enjoy

1	公益財団法人イオン環境財団
2	株式会社ジオ・ラボ/株式会社KOO
3	上富良野書道愛好会
4	国立研究開発法人 防災科学技術研究所
5	大雪青少年交流の家
6	ジャパンエコトラック推進協議会
7	フラヌイウングル
8	アジア航測(株)×(株)ウェザーコック
9	特定非営利活動法人有珠山周辺地域ジオパーク友の会
10	大雪山カムイミントラジOPARK構想推進協議会
11	白滝ジオパーク
12	旭川地方气象台
13	火山からのおくりもの:十勝石(黒曜石)

Shopping

1	凌雲閣
2	ふらの香りの舎
3	あーまーる
4	TF食品(株)

Shopping

5	KAMIHOTARU
6	Kaneko Coffee Beans
7	こもれびより
8	てらてらの丘
9	しまねずみファーム
10	有限会社 多田農園
11	合同会社 たてお農園
12	収穫祭事務局
13	農業地域おこし協力隊(野菜釣り)
14	JAふらの
15	JAふらの
16	上富良野産新米販売
17	収穫祭事務局
18	農業地域おこし協力隊(カレー)
19	収穫祭ドリンク販売
20	豚肉販売推進協議会
21	GEO SHOP(ジオショップ)
22	ハーブガーデン富良野

火山実験ワークショップ

主催	十勝岳ジオパーク推進協議会	会場	北海道上富良野高校
協力	日本火山学会・全国火山実験研究交流会 実行委員会		体育館及び体育館横の駐車場敷地の一部(高校) 上富良野小学校 体育館及びグラウンドの一部(小学校)
開催日時	令和7年9月26日(金)10時00分 ～12時00分(高校) 13時05分～15時10分(小学校) ※東中(ひがしなか)小のみ15時30分終了	実施内容	(1)火山に関する様々な実験をブース形式で出展し 各グループで巡回体験 (2)高校生対象出展数:6実験、小学生対象出展数:8実験 (3)1実験ブースあたり約10分で実施、野外実験のみ25分
		参加者数	353名

全国火山実験研究交流会実行委員会(日頃から火山実験に携わる研究者が「火山実験」を全国に普及することを目的として活動)の協力のもと、第15回日本ジオパーク全国大会十勝岳大会のプレイベントとして、火山実験ワークショップを実施しました。本ワークショップでは、活火山と共生する本ジオパーク地域の児童・生徒に向けて様々な種類の火山実験を行い、地球科学の「面白さ」に触れる機会を提供することを目的としました。

普段は聞けない火山研究者のお話を聞いて、日常生活とは異なる視点から十勝岳や十勝カルデラと向き合うことで、知的好奇心を刺激し、新たな気づきや、郷土愛を育むきっかけとなったことを切に願います。

実験1 「ココアパウダーのカルデラ形成実験」

林 信太郎/秋田大学 名誉教授
でこぼこな地球のうえをあるくみるかんがえる研究所所長



実験2 「パミスのだいぼうけん」 佐藤 公/磐梯山噴火記念館 館長、鈴木 比奈子/専修大学助教



実験3 「お麩を用いた火山噴火実験」 佐藤 鋭一/北海道教育大学旭川校 准教授、学生ボランティア(同研究室)



火山実験ワークショップ

実験4 「岩石の観察」 佐藤 鋭一/北海道教育大学旭川校 准教授、学生ボランティア(同研究室)



実験5 「火山をつくろう(安息角の実験)」 臼井 里佳/伊豆大島ジオパーク



実験6 「泥流実験」 横山 光/北翔大学 教授、学生ボランティア(同研究室)



実験7 「薄型水槽実験」 横山 光/北翔大学 教授、学生ボランティア(同研究室)

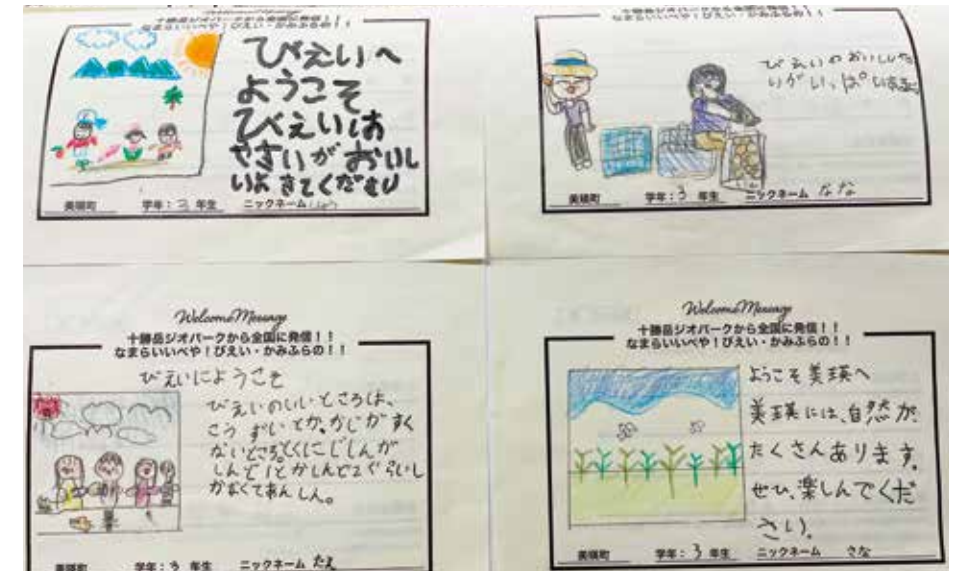


実験8 「溶岩ドロドロ実験」 三好 雅也/福岡大学 教授



全国大会記念特別事業・ウェルカムメッセージカード展示

美瑛町・上富良野町の小学生が、全国大会に訪れる皆様へ心を込めて書いたウェルカムメッセージカードの展示をしました。カードには、地球の未来を守るためのメッセージ、ふるさとへの誇り、そして来場者への温かい歓迎の気持ちが込められており、上富良野町内の3小学校から328枚、美瑛町内の5小学校から221枚の合計549枚が集まりました。



全国大会記念特別事業・ジオ自由研究作品展展示

十勝岳ジオパークエリア(美瑛町・上富良野町)の小学生たちが、夏休み期間を通して取り組んだ自由研究作品の展示をしました。地質・地形、動植物、歴史・文化、産業・観光、アイヌ文化など、地域と自分たちの暮らしとのつながりをテーマに作品を募集し、上富良野町内の3小学校から31作品、美瑛町内の5小学校から55作品の合計86作品が集まりました。



大会参加登録者数

ブロック	地域名	参加者数	正・準会員 (当時)
北海道	アポイ岳	10	正
	洞爺湖有珠山	21	正
	白滝	13	正
	とかち鹿追	12	正
	三笠	8	正
東北	大雪山カムイミントラ	14	準
	下北	9	正
	三陸	12	正
	八峰白神	9	正
	男鹿半島・大淵	6	正
	鳥海山・飛鳥	19	正
	ゆざわ	9	正
	栗駒山麓	8	正
	磐梯山	6	正
	蔵王	6	正
	浅間山北麓	9	正
	下仁田	8	正
関東	秩父	5	正
	筑波山地域	15	正
	銚子	10	正
	箱根	10	正
	伊豆大島	6	正
	古閑東深海盆	0	準
	那須烏山	0	準
	伊豆半島	10	正
	糸魚川	7	正
	佐渡	4	正
中部	苗場山麓	2	正
	南アルプス (中央構造線エリア)	1	正

ブロック	地域名	参加者数	正・準会員 (当時)
中部	立山黒部	6	正
	白山手取川	15	正
	やまなし上野原	10	準
	南紀熊野	27	正
中四国近畿	山陰海岸	23	正
	隠岐	4	正
	島根半島・宍道湖中海	4	正
	萩	7	正
	Mine秋吉台	15	正
	室戸	9	正
	四国西予	9	正
	土佐清水	5	正
	三好	8	正
	せとうち讃岐	5	準
	島原半島	14	正
	阿蘇	3	正
九州	おおいた姫島	5	正
	おおいた姫島豊後大野	10	正
	霧島	13	正
	桜島・錦江湾	30	正
	三島村・鬼界カルデラ	2	正
	五島列島 (下五島エリア)	12	正
	嘉界島	5	正
中学生		41	
高校生		35	
その他		68	
十勝岳		219	正
合計		853	

※一般来場者数(開会式・基調講演・ポスター発表・パネルディスカッション)
延べ200名

第15回日本ジオパーク全国大会十勝岳大会実行委員会名簿

No.	役 職	氏 名	所 属	摘要
1	名誉顧問	鈴 木 直 道	北海道知事	
2	顧 問	古 川 隆 三 郎	日本ジオパークネットワーク理事長	島原市長
3	顧 問	中 田 節 也	日本ジオパーク委員会委員長	東京大学名誉教授
4	実行委員長	角 和 浩 幸	美瑛町長	協議会会長
5	副実行委員長	斉 藤 繁	上富良野町長	同会副会長
6	監 事	青 野 範 子	(一社)かみふらの十勝岳観光協会会長	同会監事
7	監 事	板 東 康 治	美瑛町森林組合代表理事組合長	同会監事
8	委 員	下 道 英 明	洞爺湖有珠山ジオパーク推進協議会会長	洞爺湖町長
9	委 員	佐 々 木 修 一	白滝ジオパーク推進協議会会長	遠軽町長
10	委 員	西 城 賢 策	三笠ジオパーク推進協議会会長	三笠市長
11	委 員	喜 井 知 己	とかち鹿追ジオパーク推進協議会会長	鹿追町長
12	委 員	荒 木 輝 明	アポイ岳ジオパーク推進協議会会長	様似町長
13	委 員	今 津 寛 介	大雪山カムイミントラジオパーク構想推進協議会会長	旭川市長
14	委 員	青 山 裕	北海道大学大学院理学研究院附属地震火山研究観測センター教授	協議会顧問
15	委 員	佐 藤 鋭 一	北海道教育大学旭川校地学教室(火山学・岩石学研究室)准教授	同会顧問
16	委 員	廣 瀬 亘	地方独立行政法人北海道立総合研究機構環境・地質研究本部地質研究所研究主幹	同会顧問
17	委 員	鈴 木 貴 久	美瑛町教育委員会教育長	協議会会員
18	委 員	鈴 木 真 弓	上富良野町教育委員会教育長	同会会員
19	委 員	齊 藤 齊	大雪消防組合消防本部消防長	同会会員
20	委 員	西 出 明 史	富良野広域連合消防本部消防長	同会会員
21	委 員	西 海 正 博	(一社)美瑛町観光協会会長 兼 びえい白金温泉観光組合組合長	同会会員
22	委 員	佐 川 泰 正	NPO法人 環境ボランティア野山人理事長	同会会員
23	委 員	池 田 正 樹	富良野広域連合上富良野消防署署長	同会会員
24	委 員	和 田 昭 彦	上富良野町郷土をさぐる会会長	同会会員
25	委 員	北 川 昭 雄	上富良野町建設業協会会長	同会会員
26	委 員	輕 部 恭 子	上富良野町校長会会長	同会会員
27	委 員	加 藤 祐 一	上富良野町商工会会長	同会会員
28	委 員	富 田 朋 子	上富良野町女性連絡協議会会長(赤十字奉仕団)	同会会員
29	委 員	大 野 真 智 子	上富良野町女性連絡協議会(生活安全女性部)	同会会員
30	委 員	西 川 美 智 代	上富良野町女性連絡協議会(赤十字奉仕団)	同会会員

31	委 員	村 上 孝 子	上富良野町女性連絡協議会(赤十字奉仕団)	同会会員
32	委 員	藤 澤 直 美	上富良野町女性連絡協議会(更正保護女性部)	同会会員
33	委 員	関 口 京 子	上富良野町女性連絡協議会(中央婦人会)	同会会員
34	委 員	中 澤 正 子	上富良野町女性連絡協議会(生活安全女性部)	同会会員
35	委 員	奥 田 朋 子	上富良野町女性連絡協議会(商工会女性部)	同会会員
36	委 員	大 道 容 子	上富良野町女性連絡協議会(更正保護女性部)	同会会員
37	委 員	原 喜 美 子	上富良野町女性連絡協議会(中央婦人会)	同会会員
38	委 員	神 田 春 樹	上富良野町青少年団体協議会会長	同会会員
39	委 員	松 本 章	上富良野町スポーツ協会会長	同会会員
40	委 員	井 上 文 雄	上富良野町十勝岳山岳会会長	同会会員
41	委 員	森 本 京 子	上富良野町文化連盟会長(書道愛好会)	同会会員
42	委 員	多 田 江 美 子	上富良野町文化連盟(FDダンス会)	同会会員
43	委 員	下 園 二 三 江	上富良野町文化連盟(書道愛好会)	同会会員
44	委 員	野 原 美 紀 子	上富良野町文化連盟(茶花道教室)	同会会員
45	委 員	多 田 容 子	上富良野町文化連盟(カラオケフラワー会)	同会会員
46	委 員	笹 木 人 美	上富良野町文化連盟(フラダンス会)	同会会員
47	委 員	小 田 喜 美 男	上富良野町老人クラブ連合会会長	同会会員
48	委 員	荒 生 博 一	かみふらの十勝岳観光旅館協会会長	同会会員
49	委 員	奥 田 哲 也	上富良野ライオンズクラブ会長	同会会員
50	委 員	山 下 達 也	独立行政法人国立青少年教育振興機構国立大雪青少年交流の家所長	同会会員
51	委 員	後 藤 洋 子	株式会社後藤美術研究所館長	同会会員
52	委 員	大 庭 徳 正	大雪消防組合美瑛消防署署長	同会会員
53	委 員	田 村 政 行	「土とトラクターの博物館」土の館館長	同会会員
54	委 員	広 瀬 孝 司	那智・美瑛火祭り実行委員会委員長	同会会員
55	委 員	三 浦 陽 一	美瑛山岳会会長	同会会員
56	委 員	興 梶 勝 也	びえい新聞代表	同会会員
57	委 員	菅 野 勝 見	美瑛町郷土史料保存会会長	同会会員
58	委 員	濱 塚 努	美瑛町建設業協会会長	同会会員
59	委 員	岸 美 香	美瑛町校長会副会長	同会会員
60	委 員	蔵 重 満	美瑛町商工会会長	同会会員
61	委 員	杉 本 和 雄	美瑛町商工業協同組合理事長	同会会員
62	委 員	花 輪 紀 宏	美瑛町青年会議所会長	同会会員
63	委 員	江 花 秀 一	美瑛町農業協同組合代表理事組合長	同会会員
64	委 員	西 森 郁 子	美瑛町婦人団体連絡協議会会長	同会会員
65	委 員	帯 刀 ル ミ	美瑛町婦人団体連絡協議会	同会会員
66	委 員	有 富 幸 子	美瑛町婦人団体連絡協議会	同会会員
67	委 員	内 田 朋 子	美瑛町婦人団体連絡協議会	同会会員
68	委 員	宇 野 佳 子	美瑛町婦人団体連絡協議会	同会会員
69	委 員	片 山 明 美	美瑛町婦人団体連絡協議会書記	同会会員
70	委 員	源 津 明 美	美瑛町婦人団体連絡協議会	同会会員
71	委 員	藤 田 由 美	美瑛町婦人団体連絡協議会	同会会員
72	委 員	蛭 原 留 美 子	美瑛町婦人団体連絡協議会	同会会員
73	委 員	村 上 順 子	美瑛町婦人団体連絡協議会	同会会員
74	委 員	小 滝 利 和	美瑛町老人クラブ連合会会長	同会会員
75	委 員	吉 川 智 巳	有限会社 美瑛物産公社代表取締役	同会会員
76	委 員	西 木 晴 彦	ふらの農業協同組合北エリア運営委員長	同会会員
77	委 員	森 雅 義	北海道上富良野高等学校校長	同会会員
78	委 員	三 上 英 一	北海道美瑛高等学校校長	同会会員
79	委 員	桜 井 一 成	北海道旅客鉄道株式会社旭川支社支社長	同会会員
80	委 員	大 西 直 美	十勝岳ジオパークガイド	同会会員
81	委 員	佐 々 木 清 美	十勝岳ジオパークガイド	同会会員
82	委 員	柴 田 真 由 美	十勝岳ジオパークガイド	同会会員
83	委 員	大 道 千 ア キ	十勝岳ジオパークガイド	同会会員
84	委 員	森 公 子	十勝岳ジオパークガイド	同会会員
85	オブザーバー	嶋 田 貴 洋	北海道上川総合振興局長	同会会員
86	オブザーバー	今 村 隆 之	北海道教育庁上川教育局局長	同会会員
87	オブザーバー	半 谷 敬 幸	国土交通省北海道開発局旭川開発建設部部长	同会会員
88	オブザーバー	高 橋 学	国土交通省気象庁旭川地方気象台台長	同会会員
89	オブザーバー	猪 股 英 史	農林水産省林野庁北海道森林管理局上川中部森林管理署署長	同会会員
90	オブザーバー	三 浦 康 和	農林水産省林野庁北海道森林管理局上川南部森林管理署署長	同会会員
91	オブザーバー	菅 野 敬 雅	環境省北海道地方環境事務所大雪山国立公園管理事務所東川管理官事務所国立公園管理官	同会会員
92	大会事務局	長 野 克 哉	十勝岳ジオパーク推進協議会	事務局長
93	大会事務局	中 村 有 吾	十勝岳ジオパーク推進協議会	事務局次長・専門員
94	大会事務局	荒 明 慎 久	十勝岳ジオパーク推進協議会	事務局次長
95	大会事務局	富 島 千 晴	十勝岳ジオパーク推進協議会	専門員
96	大会事務局	中 平 泰 樹	十勝岳ジオパーク推進協議会	事務局員
97	大会事務局	管 野 航	十勝岳ジオパーク推進協議会	事務局員
98	大会事務局	芦 田 節 代	十勝岳ジオパーク推進協議会	事務局員
99	大会事務局	安 藤 公 治	十勝岳ジオパーク推進協議会	事務局員
100	大会事務局	大 関 賢 士	十勝岳ジオパーク推進協議会	事務局員
101	大会事務局	嶋 崎 結 衣 奈	十勝岳ジオパーク推進協議会	事務局員
102	大会事務局	黒 川 大 翔	十勝岳ジオパーク推進協議会	事務局員